

小城市立岩松小学校
学校だより 第46号



岩松小だより

令和8年3月19日発行
発行者 校長 真子靖弘

30名が創り上げた、「笑い」と「涙」の卒業式



外はあいにくの雨となりましたが、式場は30名の卒業生の晴れやかな笑顔と熱気に包まれていました。3/18(水)、「第79回卒業証書授与式」を挙行いたしました。30名の卒業生が、住み慣れた学び舎からそれぞれの未来へと力強く巣立っていきました。

私とこの子たちとの出会いは2年前でした。わずかに2年間という短い月日ではありましたが、共に過ごした時間は密度が濃く、私にとってかけがえのない宝物となりました。4年生の頃は少し「ヤンチャ」だったという噂も耳にしましたが、今の彼らにその面影はありません。むしろ、誰に対しても自然に距離を縮め、周囲の人をいつの間にか自分の世界に引き込んでしまう、**不思議な魅力を持つ集団へと成長**しました。彼らの強みは、**溢れ出るアイデアを互いに尊重し、高め合える「創造力」**にあります。そして何より、後輩たちへの眼差しが本当に**優しかった**。下級生の気持ちに寄り添い、それに応える姿は、長年中学教育に携わってきた私の目から見ても、非常に**「自律」した頼もしいもの**でした。



今回の卒業式は、本校にとって**初めての試み**である**「児童主体」の形式**で行いました。自分たちで考え、創り上げた式は、まさにこの1年間の彼らの活躍を象徴するような、涙あり、笑いありの感動的なものとなりました。**彼らが岩松小に残してくれた功績は、計り知れません。**

個人的な願いを言えば、この素晴らしい30名の中から、将来、教育の道を志す子が一人でも出てくれたらこれほど嬉しいことはありません。中学校という新しいステージでも、決して遠慮することなく**「岩松魂」**を存分に発揮してください。1年生という立場を超えて、学校の中心となって活躍してくれることを心から期待しています。

最後になりましたが、当日は多くのご来賓の皆様にご出席いただき、温かい祝福を賜りました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

念願成就！校長室で叫んだ「一通の招待状」

3/13(金)、6年生が主催する**「ミニ運動会」**が体育館で開催されました。前日、突然届けられた一通の招待状に驚いた私でしたが、実は密かにこう思っていました。「6年生は後輩たちとは仲良く遊んでいるけれど、どうして職員とは遊んでくれないのか……」。そんな私の心を読み透かしたかのように、当日のお昼、校内にユニークな放送が響き渡りました。

「さてさてえ～、先生方、聞こえていますか～！先生方の心が読める『ミスひまり』が、皆さんの心を読みました。

オホホ…先生方は、下級生ばかりイベントに参加していないあ、自分たちも参加したいなあ、と思っていたでしょ！」

凶星の指摘に、私は思わず校長室で「えっー！」と叫んでしまいました。「無理して来なくていいですが、無理してきて下さい！」という絶妙な誘い文句に背中を押され、いざ体育館へ。

会場は秋の運動会のスローガンが掲げられ、雰囲気づくりも万全。6年生と職員の混合3チームによる**綱引き**や**リレー**で、



下級生の応援を背に大盛り上がりとなりました。競技後には、ある児童から「57歳にしてはリレーが速かったですよ！」と嬉しい(?)お褒めの言葉も。

運動会終了後には、数名の**5年生が主体的に片付けを手伝う姿**があり、その頼もしさにも胸が熱くなりました。卒業まで残り3日。6年生が残してくれたこの「温かな時間」と、それを受け継ぐ5年生の姿に、岩松小の明るい未来を感じた一日となりました。

二瀬川に誕生！小中コラボの「新アート」

3/16(月)、二瀬川橋の歩道橋に小城中美術部と岩松小6年生が共同制作した**アート作品**が掲示されました。地域の新しいシンボルとして、登下校や散歩で通りかかる人々の心を明るく彩ってくれる力作です。ぜひ現地でご覧ください。

